

I . トピックス

富山大学では、国立総合大学にしかできない学部の垣根を超えた融合型教養教育と、幅広い専門性を学び深めていく学部教育だけではなく、今後の変化が激しい現代社会を生き抜いていくのに必要な“汎用的能力”の修得のため、次の3点に関する教育を全学で推進しています。

① データサイエンス教育の推進

社会に必要なデータやデジタル技術を使いこなす力

② 英語教育の推進

グローバルな世界で通用するコミュニケーション能力

③ アクティブラーニングの推進

自ら考え、学び、課題解決に繋げる姿勢

「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を推進

「今後の情報を基盤とした社会においては、基礎的で普遍的な知識・理解等に加えて、数理・データサイエンス等の基礎的な素養を持ち、正しく大量のデータを扱い、新たな価値を創造する能力が必要」（平成30年11月26日、中央教育審議会、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」より）

●富山大学では、2020年度より入学する全学部学生に、数理・データサイエンスに関する基礎力を培うための、「富山大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を提供開始（データサイエンス教育を必修化）。

●2021年8月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定。

●リテラシーレベルよりもさらに専門的な内容を含んだ「認定教育プログラム（応用基礎レベル）」に、2022年工学部、2023年都市デザイン学部、2025年経済学部と工学部が認定。

●令和6年には、大学改革支援・学位授与機構の大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に採択され、上級者養成を開始。



認定の有効期限
令和11年3月31日

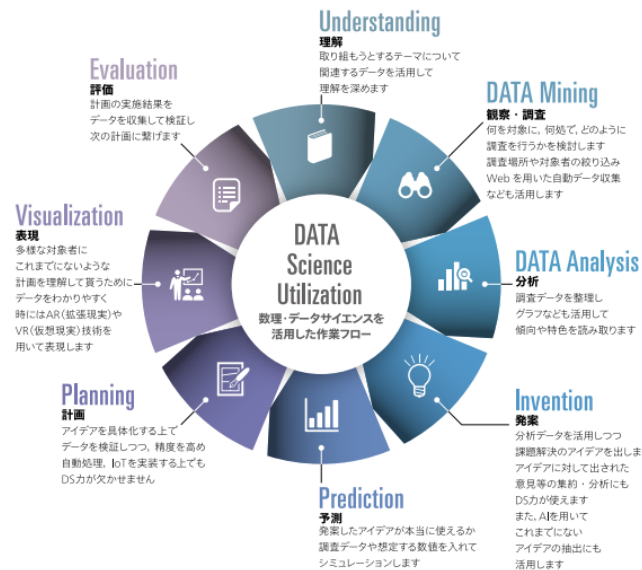


認定の有効期限
工学部 令和9年3月31日
都市デザイン学部 令和10年3月31日
経済学部 令和12年3月31日
理学部 令和12年3月31日

University of Toyama : Mathematical, DATA Science & AI Education 文系理系を超えた基礎力—それがDS力

現代社会には様々な情報があふれています。ビッグデータ、IoT (Internet of Things)、AI (人工知能) 等の先進的な技術が、これからの「Society 5.0」と呼ばれる社会を支えて行くことになります。これから社会に出る皆さんは、これらの技術を使いこなすことで、自らの活動領域を広げていくことができます。

文系理系、学部や専門分野が異なっても、仕事や研究の進め方は共通するところがあります。富山大学では、全学部において入学から卒業まで一貫性をもった数理・データサイエンス教育を行い、社会に貢献できる人材を育成します。



大学受験期をピークとしない英語教育で、 全学生の英語力向上に取り組む

● TOEIC-IPテストを1年次に2回実施

1年次の教養教育の必修科目の英語において、TOEIC-IPテストを組み合わせ（4月と12月）、e-learningを導入し英語の継続的な学びを確立。

● 確実な英語力向上

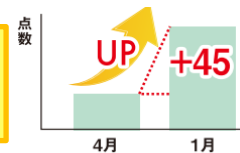
英語の授業では、「習熟度別」クラスと「興味・関心別」クラスで学修。TOEIC-IPテストの受検者平均点は、令和4（2022）年度入学者で45点UP、令和5（2023）年度は52点UP、令和6（2024）年度は46点UP、令和7（2025）年度は42点UP。200点以上UPの学生も有。

● 1年次春休みに「短期海外英語研修」

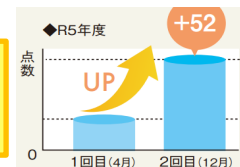
英語を「学ぶ」だけではなく、「使う」機会を設定。1年次修了後の2～3月（春季休暇中）に、70名を海外の提携大学へ派遣する研修プログラムを用意（2026年度は、オーストラリア/ニュージーランド/マレーシア/台湾）。参加学生には、大学基金から1人あたり10万円を補助。



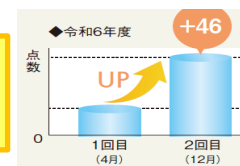
R4
入学者



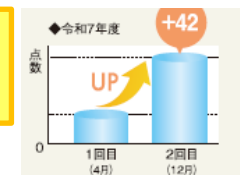
R5
入学者



R6
入学者



R7
入学者



富山大学は「学生の主体的な学びを促す」ことを 全学における“教育目標”として明記

●富山大学【理念と目標】

・目標 I 教育 ー高い使命感と創造力のある人材の育成ー

富山大学は、学生の個性を尊重しつつ人格を陶冶するとともに、倫理観を育み、広い知識と深い専門的学識を教授することにより、「使命感と創造力に富む人材を育成する総合大学」を目指す。

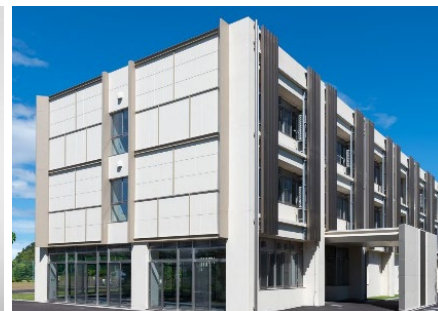
1. **学生の主体的な学びを促し**、多様な学修ニーズに応え、教育の質を保証するために、教育環境の充実と教育システムの改善を図り、教員の教授能力の不断の向上に努める。
2. 学士課程では、教養教育と専門教育を充実し、グローバルな知識基盤社会に貢献できる、豊かな人間性と創造的問題解決能力を持つ人材を育成する。
3. 大学院課程では、体系的で高度な専門教育を充実し、現代の多様な課題に果敢に挑戦し解決できる人材を育成する。

一方通行的な講義形式の従前の教育とは異なり、学生が能動的に学修していくために「**アクティブ・ラーニング**」を取り入れた講義を、**全学で推進**。

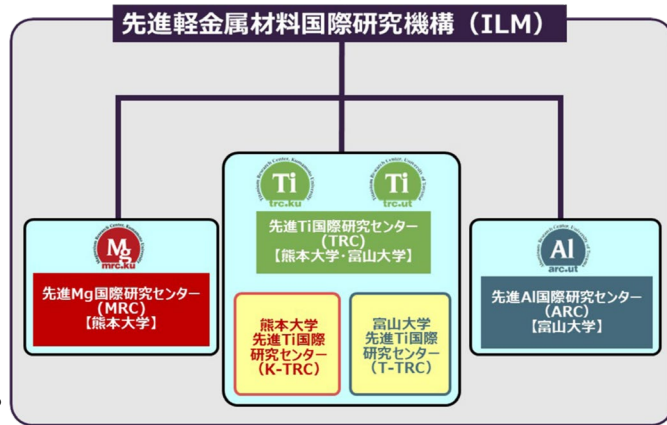
グループワークやディスカッション、反転授業、PBL型授業等の手法も取り入れながら、学生が自ら考え課題をみつけ解決に導く能力修得をめざし講義を展開。

アクティブ・ラーニング導入率 **80** % (2025年度)

軽金属を究め、 世界へ。



先進軽金属材料国際研究機構 (ILM)



2021年4月、熊本大学と富山大学は、**全国初の軽金属の総合的な研究教育拠点「先進軽金属材料国際研究機構 (ILM)」**を設立。

マグネシウムの研究拠点である熊本大学と、アルミニウムの研究拠点である富山大学が連携し、熊本県と富山県の地域産業の特徴を踏まえ**マグネシウム・アルミニウム・チタンの「三大軽金属」**を総合的に扱う**研究教育拠点**。

軽くて丈夫な軽金属は、電気自動車 (EV) や航空宇宙、橋、医療機器など幅広い分野で活用が進み、世界各国が研究開発を強化。ILMが軽金属によるイノベーション創出をリードし、日本の科学技術と産業発展への貢献が期待される。

アルミで「富山資源循環社会モデル」創成へ

●科学技術振興機構（JST）共創の場形成支援
2022年 地域共創分野 [育成型] 選定（全国47大学中8大学）
2024年 地域共創分野 [本格型] 選定（全国8大学中2大学）

アルミから
はじまる

循環経済型イノベーション都市

Target 2 100%循環ライフスタイルによる
豊かな暮らしを地域の誇りに

市民

くらし

課題 5

新たな価値観の創出

100%循環ライフスタイルの実践

分別と収集のルール形成

循環経済を担う人材育成

新時代の牽引者を育成

富山大学
研究開発

課題 2

捨てる素材を
なくす選別技術

スクラップの
海外流出防止

課題 1

不純物を除去する
アップグレード技術

スクラップの
海外流出防止

経済効果 **850** 億円

Target 1

アルミ100%資源循環から
地域経済活性化を実現

課題 2

リサイクル材を使った
ものづくり技術

スクラップの
海外流出防止

課題 3

アルミを無駄なく
使う技術

スクラップの
海外流出防止

経済効果 **40** 億円

課題 4

リサイクル過程の
見える化技術

スクラップの
海外流出防止

モノの
トレーサビリティ
確保

オール富山の「団体戦」で

市民が中心！ 世界に挑む！

経済と環境が両立する持続可能な
社会「富山循環経済モデル」の創成

地域
サポート

人が集まる誇れる地域

経済の活性化

みんながうれしい！

アルミでつくる
新たな価値の循環
TOYAMA 2034

企業
しごと

デザインや
製品設計で高付加価値化

イノベーション投資による
リサイクル技術の社会実装

環境価値で差別化

新産業・スタートアップ創出

若者の雇用創出

TOYAMAアルミ

新しくつくるよりも

CO₂を **97** %も削減！

カーボンニュートラルへの対応

2033年(PJ 終了)までに
777 万トン削減

■富山資源循環社会モデル創成
に向けた産学官民共創拠点HP



<https://kyoso.ctg.u-toyama.ac.jp/>

★「アルミ」「軽金属」に
興味がある生徒は、
都市デザイン学部
材料デザイン工学科へ。



<https://www.sus-u-toyama.ac.jp/department/materials-design/>

アルミ資源を廃棄せず繰り返し利用する“資源循環社会”を産学官民で構築することが目標。
CO₂削減効果の大きい「アルミ産業」の資源循環モデル構築を推進することで、富山県の工業
の持続的発展、我が国のアルミ産業の発展、地球規模での環境保護貢献を目指す。